

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したようになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。

また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名
(ユニット名) **グループホーム笑憩の里
笑みの家**

所在地
(県・市町村名) **鹿児島県鹿児島市**

記入者名
(管理者) **野元政子**

記入日 **平成 19年 3月 20日**

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取組 んで いきたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		<p>私達は孤立することなく、地域のなかで利用者が尊厳を保ち、その人らしい生活ができるよう、その生活の継続を支援するサービスとして事業所独自の理念を作っている。</p> <p>基本理念=「私達は、笑憩の里利用者ご家族の尊厳と思いを最大限尊重し、ご本人の持てる力、ご家族の力、地域の力に働きかけ、一緒に考え利用者が一日一日を生き生きと過して頂けるよう笑顔で寄り添っていきます。(いっしょに たのしく ゆったり)グループホームのケアのあり方、役割や課題を地域へ発信し地域で支えるまち作りに貢献してまいります。」理念の実現と継続に努めていく。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		<p>ミーティング、日々の介護サービスの場面において、パーソンセンタードケア、地域密着型サービスについて話し、理念を共有している</p> <p>職員は協力して、利用者の心地よい体験の実現や自立支援のケア、地域の中での生活実現に日々取り組んでいる。</p> <p>ホーム内に数ヶ所掲示し、意識して基本理念の実践に取り組んでいる。</p> <p>介護職員の新規採用時には、必ずホームの運営理念について 説明し理念を共有し実現できるよう取り組んでいく。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		<p>基本理念をホーム内に掲示して、利用者や家族来訪時、地域へお知らせしている。</p> <p>理念を運営推進会議資料(活動報告等)に載せており、会議の折に地域や家族へ事業所の実践を報告している。</p> <p>入居契約時に笑憩の里便りを見ていただき事業所の実践を伝えるようにしている。</p> <p>基本理念をホーム内に掲示し、家族や地域の方々や見学相談者の来訪時等に説明し、笑憩の里便りを見ていただき事業所の実践を伝えるようにしている。</p> <p>地域の集まりやイベントでの講話要請があれば「認知症でも落ち着いた暮らしが実現」等の話をさせていただく用意がある。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		<p>日々の地域散歩の際には、利用者と職員が地域の方々との気さくに挨拶を交わしている。</p> <p>夏祭りや敬老会などを通じて地域の方々へ気楽に参加していただいたり、ボランティアの参加があり、楽しみの一つになっている。</p> <p>地域の方より、花や野菜の頂き物がある。</p> <p>相談やボランティアの申し入れは積極的に受け入れる。</p> <p>利用者と職員は来訪者を笑顔で迎え、気楽に交流できるよう努めている。</p> <p>地域への日々の散歩を継続して自然な関わりが持てる。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		<p>地域の小・中学校からの福祉体験学習や新任研修の依頼を受け入れており、交流が利用者の楽しみとなっている。</p> <p>職員は利用者と共に地域行事(運動会見学)やバザーへ出掛けて行き、地元の方々との交流に努めている。</p> <p>地域の方より「最近あの人はどうしているね」と聞かれたり、気軽に利用者へ声を掛けていただいている</p> <p>職員は利用者と共に地域行事(運動会見学)やバザーへ出掛けて行き、地元の方々との交流に努めている。</p> <p>地域の方も夏祭りを楽しみにしてくださり、又近隣のグループホームにも呼びかけを行い同世代の方たちとの交流の機会を設けるなど孤立することなく積極的に取り組んでいる。</p>
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		<p>笑憩の里では、認知症介護に関する相談等を受け入れる体制があり、運営推進会議の機会を通して地域へ発信している。</p> <p>人材育成への貢献として、介護実務者研修の実習生の受け入れも積極的にしている。</p> <p>入居相談はもちろん電話相談や、突然の見学来訪者に対しても、認知症介護においてご苦労して居られる点やご意向を伺い、高齢者の暮らしについてじっくりお話しさせて頂いている。</p> <p>相談のケースについては、職員間で周知している。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取組 んで いきたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組むようにしている。</p> <p>管理者は、介護相談員・実習生・家族からの助言や感想要望等を全職員へ周知してサービスの向上に前向きに取り組んでいる。</p> <p>外部評価はハード面ソフト面の改善に生かされている</p>		<p>評価の意義を理解して全職員で自己評価に取り組んでいく。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議を奇数月の第3土曜日に設定し、運営推進会議のメンバーさんへお知らせ(ホーム内へ掲示・お便り等)して御協力をお願いしている。</p> <p>毎回、利用者やサービスの実際を報告し、意見をいただいている。</p> <p>1回目では、地域の方々へ笑憩の里をご理解いただくことでメンバーからの要望や意見を伺うことが出来なかったが、会を重ねるごとに質問、意見、要望がだされ、有意義な会議になっている。</p>		<p>自己評価・外部評価の報告や検討事項の経過報告等を行い サービスの向上につなげたい。</p> <p>庭散歩の途中で腰をおろす安全な椅子の要望に応えたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市や包括支援センターへ運営推進会議の報告を行っている。</p> <p>市の介護相談員を受け入れ、運営や現場の実情の理解を得ている。</p> <p>市の担当者が変わっても利用者への支援が継続できるよう相談など積極的連携を図っている。</p>		<p>いつでも介護相談員の受け入れ体制がある。</p> <p>運営推進会議へ包括支援センターからの参加をお願いしている。</p> <p>市の担当者からの要請があれば応えたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>玄関と事務所に「グループホーム倫理綱領」と「ご入居者と家族の権利」「成年後見制度、地域福祉権利擁護事業とは」を掲示し、利用契約時にお話している。又職員間の意識付けに活用している。</p> <p>職員はいつでも誰でも相談苦情の窓口となると周知している。</p>		<p>個々の症状など日常的に話して、入居者の感情を大切にできるケアへの取り組みを行っている。</p> <p>関連病院の精神保健福祉士との連携がとりやすく、必要な人に支援できる。</p> <p>利用契約時や職員の採用退職時には個人情報の保護、守秘義務について説明し同意を得ている。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者や職員は入浴時や更衣時に入居者の身体観察を行い異常時は、ミニカンファで話し合い記録の留め観察を継続している。</p> <p>事業者から家族へ報告、家族との相談面接を行い受診して原因を明らかにし、家族との関係づくりを大切にしている。</p>		<p>職員は「身体拘束廃止推進研修会や「認知症介護研修」「福祉サービスに関する相談・苦情解決事業研修会に参加し、高齢者介護について学んでいる。</p> <p>各マニュアルを身近におき職員はいつでも活用できる。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取組 んで いきたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約以前に必ず、家族、本人にホーム見学をして頂き、職員の紹介や時間をとって丁寧な説明を行っている。 見学時に本人の状況によっては利用者との交流もして頂く。 契約時は書類に基づき、事業所で出来る事出来ないことを明確に説明している。		見学相談や契約時に、医療連携体制の実際を説明している。 家族来訪時に、重度化や見取りにのご意向を伺っている。やむを得ず退居となる場合も、よく説明して本人家族の納得のいく支援に取り組んでいる。 契約の改訂時は、封書等でお知らせし、同意を得ている。
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年利用者が介護相談員への意見、苦情を表現できる機会を設け、利用者の意見を聞き運営の参考にしてている。 利用者に運営推進会議へ出席いただき、意見を述べる機会を設けている。 家族の意見を利用者の視点でとらえ、職員と話し合っている		人的環境が及ぼす影響を理解し、個別の対応に取り組む。 個々の中核症状を日常的に話し、理解を深めていく。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月「笑憩の里だより」を送付し、生活の様子をお知らせしている 健康面を電話や来訪時にお知らせし、受診等の相談等家族との連携に努めている。 小口預かり金について、年2回出納帳のコピーと領収書を送り、残高確認をしてもらい、確認書を受け取っている。		毎年4月健康診断を受け家族へ報告している 心身の状況について、何らかの変化が起きた時、必ずリーダーは家族へ報告し、受診の相談、経過を見ていく等の確認をしている。 家族へ運営推進会議の報告を行っている 「月間個人記録」をコピーして家族へ送る
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は、家族の率直なご意見を聞く努力や場面づくりをしている。 家族の意見や苦情は、ホームを育てる貴重なものと有難く伺い、機会をとらえ職員会議などで報告して運営に反映させている。 年6回ほど行事活動への参加を笑憩だよりや電話で呼びかけ、来訪時にご意見・感想を伺い運営に反映させている。		運営推進会議へ出席いただき、率直な意見を述べて頂きたい 親和会は世話役が脱会された為機能してないが利用者家族の為の親和会を再起させたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議は運営者、全職員の参加を前提に行われ、職員の採用、入居者の受け入れ、継続などについて職員の自由な意見を反映させている。 職員個人の意見の背景を理解するよう心がけ、個別面談や会議等で検討するなど意見や提案が反映されている。		管理者は、日頃から運営者との意思疎通を図っている。 運営者は、時々ホームへ足を運び、入居者や職員へ声を掛けている。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の個々の生活を支える為(職員の急な休み等)の柔軟な体制が取れるようローテーションを組んでいる。 日中から利用者との関係が出来ている職員が夜勤をしている。 ケアマネージャー、管理者(看護師)は、介護者の相談にいつでも対応できるよう心がけている。		介護者は(管理者不在時は)ケアマネージャーに相談している。 常勤の看護師准看護師があり、心身の変化等を相談している。 近くに協力医療機関があり、利用者の心身の変化や異常発生時に気軽に相談できる。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職、新規採用の時期は、利用者へ紹介して、不安への配慮や、早く馴染みの関係が築けるよう業務を補ったり、職員間の協力体制がある。 勤務交代は、利用者の状況と職員のバランスを考えて、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		新しい職員が入る場合、利用者との人間関係や業務がスムーズに行えるよう配慮している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取組 んで いきたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
5.人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定例会議後に、勉強会を設けている。(職員の希望の学習内容)</p> <p>新規採用時にグループホームの取り組みを説明し、現場では機会をとらえ指導や助言を行い、その効果を個人と確認しあっている。</p> <p>介護技術を高める為の学習の時間が確保できるよう勤務調整を行っている。</p> <p>外部研修の案内をコピーして職員に周知させ、研修参加の機会を作っている。</p>		<p>職員全員へ「地域密着型サービスとは」「グループホームの理解」をコピーし配布しており、読み合わせ学習する。</p> <p>研修報告書は、コピーして3部作成し施設長、各ユニットに配布して、全職員が閲覧している。</p> <p>職員会議の日に担当者から研修報告を行う。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県グループホーム連絡協議会へ加入しており、支部の研修会へ職員は参加している。</p> <p>毎年近隣のグループホームへ夏祭りの招待をしている。また他グループホームのバザーに出かけたり、見学をさせてもらったりした。</p> <p>実習生の感想や意見を職員へ報告して、日々のケアに生かしている。</p>		<p>職員育成の為に、定期的なグループホーム間の交流や学習会の実現につなげたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員間の人間関係やストレスや悩みを把握しよう努めている。</p> <p>職員個人の意見の背景を理解しよう心がけ、個別面談や会議等で検討するなど配慮している。</p> <p>管理者はいつでも相談にのる用意がある事を介護職員へ話している。</p>		<p>管理者は個々の職員へ声かけを行い相談しやすい雰囲気を作る。</p> <p>個人の業務負担が軽減できるよう会議で話し合い、分担した。</p> <p>勤務時間に退社できるよう職員間で協力配慮する。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>管理者は、運営者へ職員の日頃の努力や具体的な実績を報告している。</p> <p>職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は運営者より評価がある。</p>		<p>職員は元気で仲が良く協力体制がある。</p> <p>入社時に就業規則の説明をして身近においてある。</p> <p>年2回の健康診断を実施している。</p> <p>職員の資格取得に向けた支援を行なっている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取組 んで いきたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談の時点で本人や家族と直接会う機会を作っている 入居に当たっての要望、不安の訴えはできるだけ早く把握し、解決するよう努力している。 訴えない方も、その表情や態度からグループホームで快適に過ごせるために何が必要かを探るようにしている。 笑顔のよく出ている方については、裏に隠された気持ちを読み取る努力がもっと必要と思われる。</p>		<p>今後も本人や家族の思いをよく聞き入れてから、サービスの利用につなげていく。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人がホームで暮らしていくために、相談の時点で家族の思いをよく聞き、介護力についても把握して信頼関係が早く築けるようにしている。 これまでの家族の苦労に対し敬意を表し、協力体制を作っていく。 本人に対する苦労の大きかった家族は、入居後関係が疎遠にならないように、注意している。</p>		<p>職員は相談援助技術をもっと身に付け、家族にとって頼りになる存在を目指したい。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>空き具合の問合せや相談は時折あり、その都度、相談者や利用対象者の状況や抱える問題など伺い、待ち登録の申請や他機関の紹介など、相手の希望に合わせて対応している。 家族と本人に意見や意思の食い違いがあったり、他のサービスが適しているように思えたら、関係機関を紹介している。</p>		<p>相談は随時受け付けているが、現行の高齢者福祉制度や社会情勢など、もっと学習する必要がある。 市の管轄課や地域包括支援センターとの連携が必要。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居の希望があった場合、本人を初め家族や関係者にホーム内を見学してから検討して頂いており、本人が見学される際の表情や言動に注意を払い意思の確認をしている。 入居後は家族と連携して、本人が寂しがったり不安になったりしないよう来訪回数を増やしたり、電話連絡をしたりしている。また、職員も共感の気持ちでコミュニケーションを深め、早く馴染めるよう努めている。他利用者へも協力をお願いしている。</p>		<p>今後ショート指定を受け、入居に不安のある方は利用を勧めていく。 利用者に適した環境かどうかの見極めはなかなか難しいが、希望に沿った対応をしている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取組 んで いきたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>年配者から学ぶことはたくさんあり、また新たな発見もあって、日々喜怒哀楽や驚きの連続である。決して一方的な関係にはなっていない。</p> <p>その場その場を安全で楽しいものにしたいという職員の気持ちがいつも利用者を受け入れられるとは限らないが、コミュニケーションをよくとっていい関係を作っている。</p>	<p>更に信頼関係が深まるような対応を心がけていく。</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族は、グループホームでの本人の生活を支える大切なメンバーであるという認識を職員は持っている。</p> <p>お互いに相談し合う関係を維持している。</p> <p>家族によっては、ホーム内でのことはホームにまかせたいと思っていられやるところもある。</p>	<p>家族からの連絡が少なく、職員は家族の時間的な都合に配慮している。</p> <p>ホームの方からの連絡を好まれる家族には、意向を汲んで、利用者に関する情報を度々お知らせする。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>それぞれの意向にズレがあっても、関係が疎遠にならないよう両者に働きかけている。</p> <p>職員の働きかけを負担に感じる家族には、回数を減らしたり、報告のみ行ったりして、関係が崩れないようにしている。</p> <p>家族が抱えている問題のため、本人との関係が深まらない場合がある。</p>	<p>家族が介護力を発揮する場面を作るようにし、利用者とのいい関係が保てるようにしていきたい。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>大切な人との面会、馴染みの場所への外出など、家族と相談しながら要望を受け入れ実現している。</p> <p>家族の協力が得られない場合は、スタッフが増員の日やボランティアで対応している。</p> <p>外出や面会の回数には個人差がある。</p>	<p>今後も本人の希望に沿って、大切な人との関係が続くよう支援していく。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>一人ひとりの状態や個性を把握し、利用者同士がいい関係を作れるように支援している。</p> <p>時々トラブルも発生するが、職員が双方をフォローして和解除できている。普段は家事活動やレク活動を通して、お互いが関わり合い支え合えるように見守り助言している。</p>	<p>利用者間のトラブルを未然に防ぐために、様子観察をし、場の空気を察知するように努めていく。</p>
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>退居されても、入院先に見舞いに行ったり、家族に様子を伺ったりして、時間の経過とともに自然にグループホームとの関係が薄れるまで関わりを持っている。</p>	<p>夏祭り等の案内をお送りして、来訪の機会を作っていく。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取組 んで いきたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の表情や言動から希望や意向が推察できている。</p> <p>毎月末に翌月の個人目標について相談する際、お一人お一人の思いが伺え、希望や意向の把握ができている。</p> <p>3ヶ月ごとのカンファレンスに加わって頂き、改めて希望や意向を伺っている。</p> <p>発言の少ない方の意向が充分汲み取れているか。</p>	<p>家族にも利用者の希望や要望を知っていただくように、カンファレンスの内容をお知らせする。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>大雑把な生活歴等はアセスメント時に把握しているが、詳細については、信頼関係を築きつつ、本人の気分を見ながら伺っている。</p> <p>人に触れられたくない出来事や人間関係もあり、収集できない情報もある。</p>	<p>職員が得た情報は、1箇所まとめて記録してケアに活かすようにする。</p> <p>昔話をみんなでする場をたくさん設ける。(回想法)</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>安全に楽しくお元気に過ごしていただけることを基本に、その方の意向を大切にしながらペースを崩さない生活がおくれるように支援している。</p> <p>日常の記録類から生活のリズムや心身の状態、役割り、活動状況など総合的に把握できるようになっている。</p>	<p>センター方式のアセスメント表の記入が増え、もっと活用されるようにしたい。</p> <p>センター方式で定期的に現状の把握をしたい。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者は誰もが元気で暮らしたいと思っていられる。そのために毎月スタッフと一緒に具体的な課題・目標を考え、独自のカレンダーに記入して居室に掲げている。職員は、その目標にそった支援を行っている。</p> <p>家族へも機会あるごとに、ケアへの要望など伺っている</p> <p>3ヶ月ごとに各利用者のカンファレンスを行い、いろんな意見やアイデアを汲み上げてケアに反映させている。</p>	<p>カンファレンスは本人の参加を基本にしている。</p> <p>家族のできる支援についても問いかけ、さらに連携していく。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日常、スタッフ間で本人の変化に応じたケアの見直しや新たなケアについての話し合いや引継ぎが行われている。</p> <p>3ヶ月に1回の本人を交えたカンファレンスで意見を出し合い介護計画に反映させている。</p> <p>家族とは介護計画の期間更新時に日常の生活についての意向を伺うほか、問題や変化があると相談し計画を見直している。</p>	<p>利用者の心身状態に変動があるときは、すぐカンファレンスを行い、文書にて職員に周知させ、その対応を統一していく。</p> <p>カンファはしても、記録がきちんとした形で残らないときがあるので、注意していく。</p>
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケアや観察の記録は個別に記録して、時間の経過を追ってわかりやすくしている。</p> <p>重要な受診や薬処方の記録は別にして把握しやすくしている</p> <p>毎日朝・夕の引継ぎで、個別の情報も共有できている。</p> <p>スタッフは記録を閲覧したら確認印をするようになっている</p> <p>記録に時間がかかり過ぎないように気をつけている。</p>	<p>記録の簡素化をはかる。</p> <p>パソコン入力への移行も考慮する。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取組 んで いきたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人や家族の要望・意向を大切にし、必要性に応じてできる限りの柔軟な対応をしている。家族に代わる受診同行や外出援助等。</p> <p>利用者の入院や退居に対しては生活の継続性の視点から慎重に扱い、本人の意向を伺って医師・家族・職員が話し合い、利用者本位の対応をしている。</p>	<p>地域の高齢者を受け入れるデイやショートは備えていない。今後ショートを整備していく。重度化や終末期については、ホームの受入体制の整備が必要。</p>
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>利用者の意向により、年数回地域行事や学校行事等の見学・参加をしている。その際、係のスタッフから見学場所の提供や案内など親切にしている。</p> <p>応急処置法の指導のとき、利用者の疑問に消防署員が分かり易く答えてくださり、利用者が納得されていたことがある。</p>	<p>現在のところ、利用者個人では地域資源を生かして活動を広げたいという自発的な気持ちはないが、今後意向を伺い、何らかの必要があれば地域の関係機関やボランティアと協力して活動を支援したい。</p> <p>地域の行事情報の詳細が職員に入りにくい。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>同一敷地内の他事業所でマッサージを受けている利用者がいる。その他のサービスを受けたいとの意向や必要性は確認できていない。家族からの要請も出ていない。</p> <p>医療機関でのリハビリをスタッフが同行支援している方がいる。</p>	<p>どんなサービスがあるかを利用者で紹介し、意向を伺ってみる。</p>
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>今のところ地域包括支援センターとのつながりは、運営推進会議を通してであり、日常的には相談・依頼の用件は出ていない。</p> <p>権利擁護については、協力病院のソーシャルワーカーに相談にのってもらえるようになっている。</p>	<p>利用者への総合的・長期的なケアマネジメントについて考えてみる。</p>
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時に本人や家族の意向を受け、話し合いで主治医を決めている</p> <p>日頃から必要な医療は受けられるよう家族と連携を取りながら医療機関を受診している。家族が対応できない場合は職員が同行している</p> <p>かかりつけ医とは、情報交換をしながら連携している。</p> <p>受診の際は情報提供書を提示して、ホームでの様子をお知らせするようにしている。</p>	<p>今後も利用者の健康のために、本人を中心にDr・家族・職員が連携していく。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>施設長が精神保健指定医であり認知症に詳しいので、日常的に相談したり指導を受けたりしている。また、診断により適切な投薬や治療をしてもらっている。</p>	<p>専門医の指導助言を参考にしながら、職員も認知症の人への理解とケアのあり方について、さらに学習していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取組んで いきたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>看護職の医療知識や経験を活用しながら、利用者がホームでより良く暮らしていけるよう支援していく。</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>環境の変化によるダメージを少なくするために、利用者本位に考え医療機関と連携していく。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>本人や家族の意向に沿って、グループホームでの生活をできるだけ続けていけるよう健康をサポートしているが、将来的に口腔摂取ができなくなり栄養状態が悪化したり、座位保持ができなくなったり、頻繁な医療行為が必要になった場合は、ケースバイケースにて家族と相談している。</p> <p>なお笑憩の里での看取りの希望が強い場合は、介護により身体的・精神的苦痛や苦悩をできるだけ和らげ、本人の尊厳を保ちながら、家族と連携して可能な限りその人らしい充実した生活ができるよう援助していく。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>職員間の意思統一にさらに努める。 率直な意見ができるようにする。 職員のケア力を高める。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>利用者の意向と、住み続けられない状況を理解する。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取組 んで いきたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室、トイレなどのドアは必ず声掛けやノックをしている。 プライドを傷つけないような態度や言葉掛けにより、やる気がでたり快くなったりするように、一人ひとりに合わせた言葉かけや対応を実施している。 伏せたがっている個人情報や生活歴には触れないようにしているが、利用者さんには長年一緒に生活していると他人事ではない感情が生まれ、お互い身の上話などをし合っている。 職員が個人情報保護の意識を持つよう、文書にて注意点を確認し合い誓約書を出してもらっている。 トイレ誘導をさりげなく行っているつもりが周りに気付かれている。(本人もトイレトイレを連発される)		ホーム内での記録物(支援記録、ヒヤリハット等)で状況をわかりやすく全職員に把握させる必要のある出来事は、関係利用者さんの名前を最低限記録している。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常的に本人の思いや希望を察知するように接しているが、改まってカンファレンスの場で要望や意見、不満や不安についてたずねている。 毎月の目標・希望について本人に考えていただき、職員が援助しながら自己決定を導いている。 お茶や歓談の場で、それぞれの要望や思いを出し合う機会を作っている。		利用者さんが何でも言えるような雰囲気と信頼関係を作り上げていく。 パーソンセンタードケアへの取り組みを内部研修で学んでいく。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切にしながら、趣味活動や要望にそった過ごし方を援助している。また、日中は活動不足にならないよう、いろいろな活動を提案して参加を勧めている。 外出希望をかなえるため、同行者を探したり連絡をとったり、職員が自主的に同行したりしている。		職員まかせにならず、自主的な活動が展開されるよう働きかけていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取組 んで いきたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人が望むおしゃれや身だしなみを実現できるよう、服や化粧品などの買物同行を支援している。 家族と連携して、なじみの理・美容院が継続して利用できるよう送迎など支援している。 本人の意向により、定期的にホームへの出張理・美容師を利用している。	おしゃれや身だしなみに無頓着な方には、それとなく整容の楽しさや快適さを味わわせていけるようにする。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一番の楽しみで待たれるものになっている。 個人の力に合わせて、職員との調理準備・配下膳・食器洗いの協働が日常的になっている。その場で利用者間のトラブルが発生しないよう見守りしている。 お客様気分でもしつがらない方もいらっしゃるが、機会をとらえて声掛けをしている。 食の話題を提供して関心を引いている。	見ているだけの方も、食事への関心の表れとして捉え、そこから更に声掛けしていくようにする。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おいしい物なら基本的にみんなで食べようという仲間意識があり、ほとんど分け合って食べている。 個人的に望むおやつを食べ過ぎ、肥満の問題が出ている方もいらっしゃる。 たばこはホーム内での利用は遠慮していただいている。そのことで不満は出ていない。	本人の意向で、特別に食べたい物があれば健康面の配慮をして購入している。 (梅干し、おはぎ、大福餅、黒糖、バナナ等)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できるだけ失敗をなくすようチェック表で排泄のパターンを把握して声掛け誘導している。 日常的に尿意のあるときの表情や態度を察知して、トイレへの声掛けをしている。また行きたくなくなったら一人で行くこと勧めて自覚を促している。 天候、気温、その日の体調、食事などで排尿間隔がずいぶん違い、失敗が続く方もある。	馴染みの関係のなかでも、排泄による羞恥心を抱かないよう配慮する。 排泄器官の清潔に注意し、細菌感染にならないよう入浴を勧める。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるよう支援している	週6～7回の入浴日となっている。 個人の希望に沿った時間帯の入浴となっている。外出や受診の予定があれば、それに合わせて入浴を勧めている。 入浴剤の使用で温泉気分をだしている。 入浴順をめぐってトラブルがあるときは、話し合っ譲り合うようにしている。	入浴順では、皆がいつも満足というわけではなく、譲ってばかりの方もいらっしゃるので、職員が調整をしていく必要がある。 入浴したがない方には、入浴の効用を話たりいろいろ工夫をしている。家族の協力も得ていく。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間安眠ができるよう日中の活動や入浴を勧めている。 布団類を日に干し、シーツを清潔にして、快眠できるようにしている。布団を干したがない方は、曜日を決めて勧めている。 体調や気分の良し悪しが安眠に影響するので、心身状態を把握して職員で情報交換している。特に快調な排便が安眠にもつながることから、排便の状況を把握している。 現在は昼夜逆転の方はいらっしゃらない。	日中の活動が少なく、昼夜逆転にならないよう注意していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取組 んで いきたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている	いつも利用者さんの楽しみ・喜びは何かを探り, 具体的に実践できるよう支援している。役割り分担, 趣味活動, 入浴等。 役割りをこなし他利用者さんのためになることを喜びとする方, 役割りを負担に思う方, いろいろなので, 一人ひとりが満足感を味わえるような役割を支援している。	利用者の役割りに差があり, しない利用者にたいする不満がでてくるので, その都度対応している。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している	職員は, 認知症があっても金銭管理のできる方はたくさんいて, 自分でお金を使うことで他者との交流や買物で社会性が広がり自信につながることを体験的に知っている。 本人の意向や金銭管理能力に合わせて, 家族と相談の上で所持していただき, 買物や外出の機会をに使えるよう支援している。	お金の所持についての意向を再度確認する。 職員は利用者がどれだけのお金を所持しているか把握しておく。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに, 一人ひとりのその日の希望にそって, 戸外に出かけられるよう支援している	厳寒や猛暑を除いて, 雨の降らない日はほぼ毎日のように散歩に出掛けている。 散歩途中にある協力病院への友人訪問など個人的な希望により行っている。 ドライブは月4~6回くらいその日の希望地へ出かけている。 近隣の百円市場への買物希望に同行している。	職員が4人体制のときなど, 1対1で希望の外出ができています。緊急な外出は, 職員のボランティアや協力病院の応援で乗り切っています。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに, 個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり, 支援している	個人により, 友人と市街地で買物や食事をしたり, 家族と墓参りや自宅への立ち寄り, 受診, リハビリのための外出をしたり, 盆や正月は帰省したりする機会ができるよう支援している。 家族が遠方において来訪の機会の少ない方は, 職員体制に余裕がある場合やボランティアで外出している。	年1回, 誕生月に希望地への訪問が実現できるよう計画する。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり, 手紙のやり取りができるように支援をしている	電話利用に好き嫌いがあり, 好きな方は職員を通して毎日でもかけたいと希望があるが, 家族の都合に合わせて電話支援している。特に希望のない方には掛けるよう勤めて, なるべく家族との絆が保てるようにしている。 字の書ける方には, 暑中見舞い・年賀状のほか日常の様子をハガキや手紙に書くよう勤め, 投函を援助している。家族にも手紙通信を働きかけている。	個人の電話使用回数に差がありすぎるので, 皆さんが家族と連絡が取り合えるように, 最低でも月1~2回の電話使用を確保していきたい。 以前写真(用紙にプリントアウトしたもの)を貼ったハガキを皆さんに出して好評だったので, またしたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが, いつでも気軽に訪問でき, 居心地よく過ごせるよう工夫している	入居時に, 朝8時頃から夜9時頃までは来訪者の受け入れは自由にできることを伝えている。緊急時はこの限りでない。 開門は朝6時, 閉門は夜9時としている。 来訪の家族や友人・知人が利用者さんと共同スペースや居室でゆっくり過ごせるよう場所の確保をしたり, お茶を提供している。	利用者さんにとって, 来訪者は有難く楽しいものであるが, 時には招かざるお客が来ることもあり, 関係を把握しておく必要がある。 家族の来訪が増えるよう働きかけていく。 利用者にとって来て欲しい人がいたら連絡をとるなど支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取組 んで いきたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>外部研修の機会があれば交代で参加している。</p> <p>「禁止の対象となる具体的な行為」は当ホームの身体拘束ゼロマニュアルにも載っており、各職員は理解の上、日常的に拘束のないケアを実践している。</p> <p>ホーム内で点滴抜去の恐れのある方には、職員が目を離さないようにして、拘束をしなかった。</p>	<p>研修へは積極的に参加していく。</p> <p>今後も人権について勉強会やミーティングを行い、本人や家族の意向を大切に身体拘束を行わないケアをしていく。</p>
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中は居室や和室・玄関は鍵をかけていない。掃除や布団干し、庭への出入りのときは自由に窓や玄関を開閉している。ブザーが鳴ったら事務所でその場所の確認ができ、危険を察知できるようになっている。</p> <p>職員の少ないときに無断外出の例があり、話し合いで、玄関は朝9時に開錠、夕6時に施錠している。</p>	<p>安全のための一定のルールがあるが、利用者が精神的心理的に窮屈と感ぜないように、いつも利用者の立場に立って見直すようにする。</p> <p>帰宅要求者への対応ができています。</p> <p>常に利用者の存在を確認している。</p>
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>ホームが平屋で見通しのいい造りになっており、職員は常に利用者の所在を把握している。</p> <p>利用者の心身状態の変動を職員は把握し、連携して安全を確保している。具体的には朝夕のミーティング時に、各利用者さん一人ひとりについて状態の報告や注意点についての引継ぎがあり、情報を職員で共有できている。</p>	<p>居室で過ごされるときも、長時間になるときは職員が顔出ししてみる。</p> <p>管理するという意識ではなく、利用者さんが伸び伸びと過ごせるように安全のための見守りをしていく。台所の窓から外の様子がわかり、利用者が確認できる。</p>
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>薬については、管理能力を見極めて軟膏や湿布類のみお渡ししている。</p> <p>洗剤は誤飲誤食がないよう、洗濯場に一括保管している。</p> <p>女性の利用者さんで裁縫道具、事務用鋏や花鋏を手元に置き、日常的に便利に作業されている。剃刀、ナイフ、包丁については職員が見守りながら使用していただいている。</p>	<p>利用者さんが使い慣れた道具を危険なく継続して使え、持てる能力が維持できるよう援助していく。</p> <p>一人ひとりについて、道具とそれを使う能力との関係を大事にしていく。</p>
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>事故防止のため、各項目についてマニュアルがあり、すぐ手に取って参考とするよう事務室の目につく所においてある。職員も知識として学び、それを実践に役立てている</p> <p>一人ひとりの状態から事故の危険性を把握して表にし、日常のケアで事前に防止するようにしている。ヒヤリハットを振り返って、ヒヤリの再発を防ぐようにケアしている</p>	<p>家族への一人ひとりの予測できる事故についてお話している。</p> <p>利用者が事故のない安全な生活が送れるよう、職員は毎日気配りをしていく。</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>応急手当、初期対応のマニュアルがあり、職員会議を利用して皆で学習をした。また、消防団に要請して救急手当てや心肺蘇生法など指導を受けた。</p> <p>普段マニュアルはすぐ手に取れる所においてあり、いつでも参考にできる。</p>	<p>現場での利用者急変時や事故の場合、とっさに適切な対応が難しいので、日頃からマニュアルによく目を通して自己学習することが必要。</p> <p>内部研修計画にそって職員会議で定期的に勉強する。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回の防災訓練を消防署の指導でおこなっている。</p> <p>運営推進会議で地域の方もホームの災害時の心配をしてくださっており、今後協力体制の整備が求められる。</p>	<p>毎月自主訓練をして、避難方法や経路をいつも確認しておく。</p> <p>地域の消防団との連携を深めたい。</p>
72	<p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい</p>	<p>一人ひとりの起こり得るリスクについて一覧表にしており、家族にも事故の危険性を話している。職員は拘束しないで見守るケアをしており、抑圧感のない生活を送っていただいている。</p>	<p>予測しうる変化について会議で全員で話し合っていく。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取組 んで いきたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎日一人ひとりの表情観察を行い、バイタル・排泄・食事量・活動量などチェックを行って異変の早期発見に努めている。得た情報は職員間で共有し、状態の悪化を防ぐよう対応している。</p>	<p>早期発見，早期対応に努めていく。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>職員は、一人ひとりの薬の種類や量、効用・副作用など薬情やインターネットからの情報で理解している。誤薬がないよう細心の注意を払って服用していただいている。薬が変わったり増量になったときは、状態観察をして経過や変化をDrに報告している。</p>	<p>服薬の大事さをいつも意識し、誤薬を防ぐ。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>職員は、便秘が身心や行動に及ぼす影響を理解しており、その予防のため、繊維質の多いおやつや食事、飲料の摂取ができるよう努めている。また日中はできるだけ体を動かすよう活動を勧めている。</p>	<p>安易に下剤に頼らない工夫をしていく。 人間の生理学的な視点から、排便の習慣付けの話し合いをしていく。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>利用者に応じて、毎食後の歯磨きの声掛けや援助を行っている。 拒否により、どうしても口腔内の清潔保持が難しい方は歯科往診を受け、指導・治療をしてもらっている。 日頃から口から食事を取る大切さを話している。</p>	<p>年月がたつと、残存歯の欠損が出てくるので、義歯といっしょに残存歯も大事にするよう支援する。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事は献立メニューがあり、行事食や誕生日等変化をつけた食事となっている。内容や栄養バランスについては協力病院の栄養士に助言をもらっている。 利用者の好みや誕生日メニューは直接希望を聞いている 食事形態は咀嚼や嚥下に合わせ、食事量もチェックしている 水分摂取は食事やお茶の時間だけでなく、活動後や入浴後など度々行っている。</p>	<p>家族への写真便りに食事内容や食事風景を載せていく。 体重過多の利用者が出ているので、適正体重になるよう食事と運動に工夫をしていく。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症対策マニュアルがあり、職員は学習し確認している。 毎年、インフルエンザは特異体質の人以外は職員も利用者も全員予防接種を受けている。また風邪の予防に、換気、手洗い・うがい、清潔、栄養に気をつけている。 ホーム内の清掃、布団干し、シーツ洗濯はこまめに実施している。</p>	<p>日常的に感染症に対する意識をもつ。 手洗いとうがいを習慣化する。</p>
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>食器や調理用具は使用後乾燥機に入れてから棚に収納している。いつも清潔なものを使用している。 まな板、布巾は夜勤帯に塩素系の漂白剤で消毒している。 生鮮食材は地元のお店から毎日購入して、腐敗のある物は使っていない。冷蔵庫内の整理整頓も定期的の実施している。</p>	<p>塩素系漂白剤の多用に注意する。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取組 んで いきたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関の表札は手作りで、木目を生かした流線型の板に文字も優しいくあったかみのあるものである。</p> <p>玄関までのスロープは緩やかで、自然と足を運べる距離である。また、スロープサイドは手作りの花壇で、季節の花や木が彩りを添えている。</p> <p>建物横には洗濯干し場があり、日常生活が垣間見える家庭的な出入りのしやすいホームである。</p>		<p>季節の花木をもっと楽しめる工夫をしたい。</p> <p>職員も利用者さんも馴染んでしまっているのので、客観的な目での見直しが必要だ。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホームは、中土間を中心に食堂・和室・居室が配置され、適度な光と風が入り込んでいて居心地がいい。</p> <p>台所用品、家電品、家具など備品はほとんど一般の家庭用を使い、違和感無く温かみのある設えである。</p> <p>浴室は個浴に適したゆとりのあるもので快適に使われている</p> <p>トイレは職員との共用で、汚れはすぐ気が付き清潔が保たれる</p> <p>ホーム内のあちこちに観葉植物や季節の生け花が飾られ、明るい心む環境である。</p>		<p>季節を感じられる物をいつも飾ってきたい。</p> <p>建物は広い敷地にゆったりと建てられており、周囲は学校・公民館・畑・2軒の民家がある。交通量も適度で騒音もなく、緑が多く季節を感じられる風景がある。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所作り</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>和室、食堂、ローカのソファなど寛げる共用の場があり、2人、3人で歓談している様子が見られる。</p> <p>玄関外にも木製の長椅子を置いており、天気の良いとき、外を眺めながら和んでいる様子が見られる。</p>		<p>独りで長時間いると、不安や焦りで表情の暗くなる利用者もいるので、さりげない声掛けをして孤立感をなくす。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人・家族と相談の上、居心地のいい個室になるよう、家具、小机、ソファ、小物、写真立て、花立、テレビなど配置している。家族に協力頂き、できるだけ家庭で使っていた馴染みのある物品を持ち込んでもらっている。</p> <p>寂しさや不安が軽減するよう、家族と一緒に写真をたくさん居室に飾るようにしている。</p> <p>入居後の生活の年月が感じられるよう、誕生日記念の色紙を飾ったり、毎月のカレンダーを重ねて吊っている。</p> <p>通風や採光に気をつけ、掃除を援助して清潔な居室であるようにしている。</p>		<p>備え付けのベッドがあるので、布団の引きっぱなしが多いが、日中は畳ベッドにしてお茶飲み等の場にも使えるように勧める。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>早朝や掃除時の換気を適宜行っている。布団干しは居室の窓から出し入れをする事が多く、換気を兼ねている。また、ホーム内には換気扇が7箇所あり、適宜利用している。日常的に人の出入りが多く、換気は自然な形でできている。</p> <p>トイレは職員との共用であり、汚染や流し忘れがあっても早目の対応ができていたので汚物の臭気はない。</p> <p>室温は年間を通じて一人ひとりの状況に合わせて快適になるよう調整している。衣服の調整と併せて、暖か過ぎず寒過ぎないようなエアコンの温度設定をしている。</p>		<p>できるだけ自然な空調ができるようにしていく。</p> <p>冬の季節は意識的な換気が必要。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取組 んで いきたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関口はスロープ、ホーム内も床に段差がなく、車椅子や歩行器での通行がしやすくなっている。 脱衣所や洗面台周辺の床は滑りにくい床材を使用、歩行の不安定な方には浴槽・風呂場・廊下・トイレの手スリが転倒予防となつて自立を助け安全に暮らせている。 一人ひとりの脚力や身体状態に合わせて、ベッドからの起立がしやすいよう、ベッド下の引き出しを取りはずしている。そのほか寝返りや離床がしやすいようにベッド柵の位置を工夫している。 台所外の物干し台が高いので修理を願い出ている。室内ではスタンド式の物干しを利用している。		年々居室や共用スペースに物が増えていくので、障害物とならないように整頓する。
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	五感に働きかけて理解を得るようにしている。 朝はラジオ体操の音楽で居室から出て体操に参加される。居室入口の名札で部屋の確認ができる。タンス引出しのラベルで整理整頓ができる。トイレ内や扉の張り紙で汚さないよう注意できる。夜間は灯りでトイレの場所がわかる。 繰り返し話すことで記憶に留まる率が高まったり、規則正しい日課や活動があると習慣化されて迷わず参加でき、混乱や失敗が防げる。 一人ひとりに合わせた言葉掛けで理解を得て、混乱や失敗が少なくなるようにしている。 一人ひとりの力を見極め、協働しながら家事活動を勤めている。洗濯物干し、洗濯たたみ、掃除、調理、配下膳、食器洗い		プライドを傷つけないようなやり方を続けていく。
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居室や和室から庭に出られるようになっており、職員と掃除、散歩、畑作りなどしている。 芋は掘った後の食べる楽しみがあり、毎年利用者さんに好評いただいている。 石ころがあり、外の一人歩きは限られた方だけになっている 和室ベランダは、洗濯物干しや日向ぼっこ、散歩時の休憩、年末の餅つきなどで活用している。 天気の良い日は、建物周囲でのレク活動を行っている。 毎年、夏祭りを玄関前庭で行っている。 車の出入りで利用者さんが危険にさらされないよう、業者さんに注意をお願いしている。		畑や花壇がもっと利用者さんに活用されるように働きかけていく。 畑にいろいろなものを植えて、収穫が楽しめるようにしたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	利用者の2/3くらいの
		利用者の1/3くらいの	ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	数日に1回程度ある
		たまにある	ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが	ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが	ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが	ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが	ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが	ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	家族の2/3くらいと
		家族の1/3くらいと	ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	数日に1回程度
		たまに	ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の方が一日一日を生き生きと過ごしていただけるよう、散歩・ドライブ・屋外のレク等を多く取り入れ、身体機能の維持、精神面の安定を図っている。
職員のチームワークがよく、何でも言い合い、話し合っ、利用者さんの支援に努めている。